

年	月	日	主な出来事の内容
2018年	4月	10日	動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針の策定(9月25日改訂)
		20日	全国食品安全連絡会議
6月	12~21日		第86回 FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議(JECFA)(食品添加物の評価) スイス
		21・22日	経済協力開発機構(OECD)農業作業部会 フランス
		23・24日	第13回 食育推進全国大会 大分
		26~29日	経済協力開発機構(OECD)新規食品・飼料作業部会・ゲノム編集カンファレンス フランス
7月	10日		「新たな時代に対応した評価技術の検討～BMD法の更なる活用に向けて」の取りまとめ
		13日	みんなのための食品安全勉強会(食中毒全般・微生物) 大阪
		17日	学校教育関係者との意見交換会(食品安全の基礎・食品添加物) 栃木
		26~28日	夏休み2018宿題・自由研究大作戦! 東京
		31日	学校教育関係者との意見交換会(食品安全の基礎・食中毒全般) 愛媛
8月	2日		こども霞が関見学デー
		2・3日	夏休み2018宿題・自由研究大作戦! 大阪
		9・10日	夏休み2018宿題・自由研究大作戦! 宮城
		20日	学校教育関係者との意見交換会(食品安全の基礎・食中毒全般) 愛知
		21日	学校教育関係者との意見交換会(食品安全の基礎・食中毒全般) 大阪
9月	4日		食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題(2019年度)の決定
		4・5日	第65回 日本栄養改善学会学術総会(講演:塩と健康) 新潟
		17日	食品中の化学物質のリスク評価手法に関する国際リエゾングループ会合 イタリア
		18日	リスクコミュニケーションに関する国際リエゾングループ会合 イタリア
		18~21日	欧州食品安全機構(EFSA)カンファレンス2018 イタリア
		18~27日	FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議(JMPR)(農薬の評価) ドイツ
		21日	欧州食品安全機構(EFSA)との第6回会合 イタリア
		25日	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針の策定
		25~27日	レギュラトリーサイエンスに関する国際会合(GSRS)2018 中国
		27日	食品健康影響評価事業等功労者大臣表彰
27・28日	第39回 日本食品微生物学会学術総会(講演:カンピロバクター) 大阪		
10月	4・5日		Asian Pacific Prion Symposium 2018(講演:CWD) 東京
		10日	みんなのための食品安全勉強会(食中毒全般・微生物) 東京
		11日	学校教育関係者との意見交換会(食品安全の基礎・食中毒全般) 沖縄
		17日	みんなのための食品安全勉強会(食中毒全般・微生物) 神奈川
		19日	学校教育関係者との意見交換会(食品安全の基礎・カフェイン) 京都
		23日	宮腰大臣・左藤副大臣食品安全委員会ご挨拶
		29日	インド食品安全基準庁(FSSAI)との協力覚書締結
11月	14日		国際ワークショップ ~ヒト健康影響評価の精緻化に向けた評価技術の開発~
		15・16日	第114回 日本食品衛生学会学術講演会(講演:新しい食品健康影響評価の流れ) 広島
		16日	精講(カンピロバクター) 大阪
		19日	2018年度 食品健康影響評価技術研究成果発表会
		22日	精講(カンピロバクター) 東京
		28日	学校教育関係者との意見交換会(食品安全の基礎・食中毒全般) 岡山
12月	12日	食品に関するリスクコミュニケーション(米国等から輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価(案)) 東京	

年 月 日		主 な 出 来 事 の 内 容
	12月 13日	食品に関するリスクコミュニケーション（米国等から輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価(案)） 大阪
2019年	1月 17日	公開シンポジウム「食品健康影響評価における生体サンプルの活用に向けて～現状と今後の課題～」
	2月 20日	豪州・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)との第3回会合 豪州
	26日	食品健康影響評価技術研究採択課題及び食品安全確保総合調査実施課題(2019年度)の決定

食品健康影響評価関連

動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針の策定（2018年4月10日、9月25日改訂）

2018年4月10日、リスク評価の新たな指針として、「動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針」を策定しました。当面は危害要因判定を中心に、評価対象物質、代謝物及び分解物の食品への残留性、毒性試験成績等の情報に基づき、科学的かつ総合的に評価を行います。（2018年9月25日改訂）

■指針の概要■ 危害要因の判定は、NOEL^{※1}ではなくNOAEL^{※2}で行うことを基本にしました。動物用医薬品は、何らかの薬効を期待して動物に使用するものであり、使用した動物に対する生物学的な影響が当然に起こり得るからです。また、評価対象については、親化合物に加え、動物用医薬品が動物の体内で代謝又は分解を受ける過程で生成される化合物についても、必要に応じて検討することにしました。これらの化合物は、親化合物と同等又は同等以上の毒性を有することがあり、畜水産物を介してヒトの体内に取り

り込まれることも想定される点を考慮したものです。

このほか、指針には、動物用医薬品に特徴的な評価（抗菌性物質の評価、再審査制度等）について明記されています。また、食品健康影響評価に関する食品安全委員会や専門調査会の決定との関連付けにより、評価の全体像がこの指針ひとつで把握できるようになっています。

※1 NOEL(無作用量 No-Observed-Effect Level)：ある物質について何段階かの異なる投与量を用いて行われた反復毒性試験、生殖発生毒性試験等の毒性試験において、生物学的な影響を示さなかった最大投与量のこと。

※2 NOAEL(無毒性量 No-Observed-Adverse-Effect Level)：ある物質について何段階かの異なる投与量を用いて行われた反復毒性試験、生殖発生毒性試験等の毒性試験において、有害影響が認められなかった最大投与量のこと。

飼料添加物に関する食品健康影響評価指針の策定(2018年9月25日)

2018年9月25日、リスク評価の新たな指針として、「飼料添加物に関する食品健康影響評価指針」を策定しました。評価は、評価対象物質等への残留性、毒性試験成績等に基づき科学的かつ総合的に行うこと、等が示されています。

■指針の概要■ 飼料添加物の使用目的は、飼料の品質の低下の防止、飼料の栄養成分その他の有効成分の補給、飼料が含有している栄養成分の有効な利用の促進等です。このため、飼料添加物の食品を介したヒトへの健康影響の評価に当たっては、健康への悪影響がないと推定される摂取量の評価のみならず、食品を通じた実態に近い摂取量の評価が重要な場合があります。そこで指針では、有

効成分及び飼料添加物の用途、特性に応じた食品健康影響評価を行うことにしました。

また、飼料添加物は動物の体内で代謝又は分解を受けますが、この過程で、飼料添加物の親化合物と同等又は同等以上の毒性を有する化合物が生成されることがあります。これらが、畜水産物を介してヒトの体内に取り込まれることも想定されるため、評価対象については、このような化合物についても、必要に応じて検討することにしています。

「新たな時代に対応した評価技術の検討～BMD法の更なる活用に向けて」の取りまとめ(2018年7月10日)

■概要■ BMD(ベンチマークドーズ)法[※]は、国際的なリスク評価機関でも使用されることが多くなってきている毒性評価の手法です。[※]BMD(ベンチマークドーズ)法:P6 ^{※2}参照

評価技術企画ワーキンググループは、BMD法の手順等についての考え方を整理し、2018年7月10日、議論の経過を取りまとめた報告書「新たな時代に対応した評価技術の検討～BMD法の更なる活用に向けて～」を食品安全委員会に報告しました。

■検討の背景■ BMD法は、食品安全委員会においても、過去にヒ素やアクリルアミドなどのリスク評価で活用されていますが、実際の活用には当たっては、いくつかの技術的課題もあります。食品安全委員会が、より一貫性及び透明性を確保しつつBMD法を更に活用していくため、検討を重ねてまいりました。

● 食品健康影響評価技術研究成果発表会(2017年度終了分)

食品安全委員会は、科学を基本とするリスク評価の推進のため、リスク評価ガイドライン、評価基準の策定等に資する提案公募型の委託研究を実施しています。

2017年度に終了した研究課題について、その研究成果の普及及び活用を促進することを目的として、2018年11月19日、以下のとおり成果発表会を開催しました。

食事由来アクリルアミドばく露量推定方法の開発と妥当性の検証 および大規模コホート研究に基づく発がんリスクとの関連に関する研究	祖父江 友孝氏 国立大学法人大阪大学大学院 医学系研究科環境医学講座 教授
食品用ペットボトルから溶出する化学物質の摂取量の推定に関する研究	尾崎 麻子氏 地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所 衛生化学部食品化学2課 主幹研究員
インビボ毒性試験成績のデータベース化とそのインシリコ解析・評価への応用に関する研究	吉成 浩一氏 静岡県立大学薬学部 衛生分子毒性学分野 教授



食品健康影響評価技術研究成果発表会 http://www.fsc.go.jp/chousa/kenkyu/kenkyu_happyo.html

● 食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の課題(2019年度分)

食品安全委員会は、委員会が実施する研究・調査について、毎年度、優先的に実施すべき研究・調査課題を選定し、その後、公募、審議を行い決定しています。

2019年度分については、2019年2月26日に以下のとおり決定しました。

① 危害要因・ばく露実態の評価に必要な科学的知見の集積

アクリルアミドばく露による発がんリスク評価～大規模コホート研究保存検体を用いたコホート内症例対照研究による検討

食品用器具・容器包装に用いられるビスフェノールAに係る評価手法及び科学的知見(体内動態、毒性、ばく露量、疫学調査等)に関する調査

えび、かに及び落花生アレルギーに係る食品表示についての食品健康影響評価のための調査

② 健康影響発現メカニズムの解明

メチル水銀の脱メチル化機構における食品中の水銀／セレンのバイオジェニックナノ粒子形成

③ 新たなリスク評価方法等の確立

導入遺伝子が存在しない宿主ゲノム遺伝子発現改変植物由来食品の安全性評価点の解明

体内移行に着目した食品添加物のリスク評価手法に関する研究

認知心理学を応用した中学生・高校生を対象とした食品安全に関する理解促進プログラム(教材)の開発

薬剤耐性菌のリスク評価手法の検討に関する調査



実施中の食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査はこちらをご覧ください。

研究 http://www.fsc.go.jp/chousa/kenkyu/kenkyu_ichiran.html

調査 http://www.fsc.go.jp/chousa/sougouchousa/chousa_kadai.html

国際協調

食品安全委員会は、海外のリスク評価機関と定期的に会合を持つなど積極的に連携強化に取り組んでおり、最新の情報と意見の交換等を行っています。

● 国際ワークショップ ～ヒト健康影響評価の精緻化に向けた評価技術の開発～

2018年11月14日、国際ワークショップ「ヒト健康影響評価の精緻化に向けた評価技術の開発 (Future Challenges in Developing Assessment Methodologies for Human Health Effects)」を開催しました。

ワークショップでは、欧州食品安全機関(EFSA)、米国食品医薬品局(FDA)、国立医薬品食品衛生研究所、岡山大学の専門家と共に、ヒト健康影響評価の精緻化に向けた評価技術の開発についての取組の現状と課題を共有し、今後の活用の方角性についてパネルディスカッションを行いました。



国際ワークショップ <http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20181114ik1>

● 国際機関の専門家会合への参加

1	JECFA / JMPR	
	●2018年6月12～21日 第86回 FAO/WHO合同食品添加物専門家会議(JECFA) [スイス]	
	●2018年9月18～27日 FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議(JMPR) [ドイツ]	
2	OECD	
	●2018年6月21・22日 農薬作業部会 [フランス] ●2018年6月26～29日 新規食品・飼料作業部会・ゲノム編集カンファレンス [フランス]	
3	その他	
	●2018年9月25～27日 レギュラトリーサイエンスに関する国際会合(GSRS)2018 [中国]	
	●2018年9月17日 食品中の化学物質のリスク評価手法に関する 国際リエゾングループ会合 [イタリア] ●2018年9月18日 リスクコミュニケーションに関する 国際リエゾングループ会合 [イタリア]	

● インド食品安全基準庁(FSSAI)との協力覚書締結(食品安全委員会、消費者庁、厚生労働省、農林水産省)

食品安全委員会は、これまで、欧州食品安全機関(EFSA)、豪州・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)、ポルトガル経済食品安全庁(ASAE)、フランス食品環境労働衛生安全庁(ANSES)、ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)及びデンマーク工科大学(DTU)と協力覚書(MoC)を交換し、協力関係を構築してきました。

2018年10月29日、新たに、「インド食品安全基準庁

(FSSAI)及び食品安全委員会、消費者庁、厚生労働省、農林水産省との間の食品安全分野における協力に関する覚書(MoC)」を締結しました。

今後、本協力覚書に基づき、食品規制の運用の明確化とよりよい食品安全の確保を図るため、情報交換とコミュニケーションのメカニズムを立ち上げる等、食品安全分野における技術的な協力の促進を図ってまいります。

リスクコミュニケーション

食品安全委員会は、食品健康影響評価の結果や食品安全に関する基礎的な知識について、消費者、食品関係事業者、研究者、報道関係者、行政担当者等の様々な立場の方とリスクコミュニケーションを行っています。

● 公開シンポジウム「食品健康影響評価における生体サンプルの活用に向けて ～現状と今後の課題～」

2019年1月17日、公開シンポジウム「食品健康影響評価における生体サンプルの活用に向けて～現状と今後の課題～」を開催しました。

シンポジウムでは、企業や行政関係の方々に参加いただきました。行政担当者や研究者から、生体サンプルを用いた化学物質ばく露量調査の現状や、生体サンプルの活用に向けた最新の研究状況についての講演を行った後、食品健康影響評価における生体サンプルの活用の課題や方向性についてパネルディスカッションを行いました。



 **公開シンポジウム** <http://www.fsc.go.jp/fsciiis/meetingMaterial/show/kai20190117ik1>

● 講座「精講」

2018年11月、「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル～鶏肉等におけるカンピロバクター・ジェジュニ/コリ」(同年5月作成、本誌7ページ)をテーマとした「精講」を2回開催しました。この講座は、食品健康影響評価やリスクプロファイルの理解と活用の促進のために、食品関係事業者や研究者を対象として開催しているものです。

参加者からは「カンピロバクター属菌による食中毒を防止するために、この細菌のことをもっと知ってもらう必要がある」という内容のコメントや、精講の継続を希望するご意見をいただきました。

● 講座「みんなのための食品安全勉強会」

2018年7～10月、「知って防ごう食中毒」「食べものと微生物」をテーマとした「みんなのための食品安全勉強会」を3回開催しました。この講座は、食品安全に関する基礎的な科学的知識を提供するために、一般消費者を対象として開催しているものです。

参加者からは「食品事業者だけでなく、消費者も食品を正しく扱わないと食中毒が発生してしまうことがわかった」という内容のコメントをいただきました。

● 全国食品安全連絡会議

食品安全に関する基礎知識の普及と理解の推進を図り、地方公共団体が自ら行うリスクコミュニケーションを促進するため、地方公共団体との連携強化に努めています。その一環として毎年、全国の保健所や都道府県の食品安全担当者が一堂に会する「全国食品安全連絡会議」を開催しています。2018年4月の会議では、食品安全委員会から、リスクコミュニケーションの今後の取組方針について説明し、地方公共団体から、各自治体取り組んだリスクコミュニケーションの事例を紹介いただきました。

参加者からは、「リスクコミュニケーションの手段としての講演会やシンポジウムなどは、情報共有の段階にあたるの気づきがあった」等のコメントをいただきました。



● 地方公共団体との共催による意見交換会等

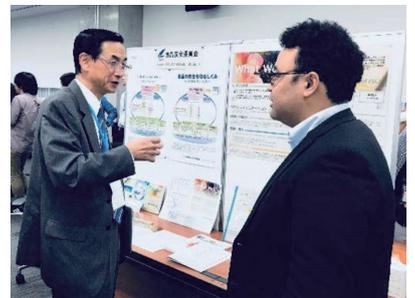
栄養教諭や家庭科教諭等の学校教育関係者を重点対象とした意見交換会を、地方公共団体と共同開催しています。意見交換会では、食品安全委員会と地方公共団体がそれぞれ食品安全に関して話題提供し、それをもとに参加者がグループに分かれて意見を交換して理解を深め、グループワークを行います。2018年度は、食中毒予防などをテーマに7カ所で開催し、例えば、食中毒防止を呼びかけるクリアファイル等が作成されました。このクリアファイルは、共同開催した地方公共団体のイベント等で配布されました。



● 学術団体との連携

食品の安全性に関する科学的な知識の普及のためには、学術団体との連携が効果的であることから、関係する学会への参加（ブース展示）及び講演を実施しています。

学会名	委員等の講演
第65回 日本栄養改善学会学術総会 (9/4・5)	佐藤委員長 講演 「塩と健康をめぐる」
第39回 日本食品微生物学会学術総会 (9/27・28)	山本委員 講演 「食品健康影響評価のためのリスクプロファイル ～鶏肉等における <i>Campylobacter jejuni/coli</i> ～」
Asian Pacific Prion Symposium 2018 (10/4・5)	事務局職員 講演 「FSCJ's Fact Sheet on CWD」(食品安全委員会のCWDに関するファクトシートについて)
第114回 日本食品衛生学会学術講演会 (11/15・16)	佐藤委員長 講演 「食品安全委員会における新しい食品健康影響評価の流れ」



食品健康影響評価事業等功労者大臣表彰



左から、熊谷氏、あかま副大臣、澤田氏

2018年9月27日、「平成30年度食品健康影響評価事業等功労者食品安全担当大臣表彰式」を開催しました。

この表彰は、食品の安全性に関し、食品健康影響評価事業等の推進に特に顕著な貢献をした方の功績を讃えるための制度で、今年度は、熊谷進氏（東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授）、澤田純一氏（（独）医薬品医療機器総合機構テクニカルエキスパート）が選ばれました。

あかま内閣府副大臣からは、「この分野で活躍されてきたことに敬意を表するとともに、食品の安全性は、私たちの生活に関わる極めて重要なテーマであり、食品健康影響評価事業は必要不可欠である」旨の挨拶を行いました。

宮腰大臣・左藤副大臣食品安全委員会ご挨拶

2018年10月23日、宮腰内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全担当）及び左藤内閣府副大臣が食品安全委員会を訪れ、委員会事務局の執務状況等を視察しました。また、食品安全委員会の委員と懇談し、委員会が果たすべき役割等について意見交換を行いました。

その後、第717回食品安全委員会会合に出席し、宮腰大臣は、冒頭の挨拶において、食品の安全性は、国民の最重要関心事項といっても過言ではなく、リスク評価を担っている食品安全委員会の重要性は、設立当時から増して増加していること、政務三役としても、食品安全行政に全力で取り組んでいく決意であることなどを述べました。





●パンフレット「食品安全委員会」の改訂

食品安全委員会の業務をわかりやすくご紹介するパンフレットを改訂しました。英語版も発行しています。

パンフレット「食品安全委員会」 <http://www.fsc.go.jp/iinkai/pamphlet/>



●キッズボックス総集編の改訂

食品の安全性に関して、お子様と一緒にご覧いただきたい記事をまとめました。

キッズボックス総集編 http://www.fsc.go.jp/kids-box/kidsbox_magazine/



●食品の安全性に関する用語集の改訂

食品健康影響評価を理解するために知っておいていただきたい用語をご紹介します。2018年10月、ウェブサイトに掲載している用語集のページを改訂し、用語を検索しやすくしました。用語は、随時更新を行っています。

食品の安全性に関する用語集 <http://www.fsc.go.jp/yougoshu.html>



●専門調査会紹介ページ「リスク評価の窓」の新設

ホームページ内に「リスク評価の窓」を新設しました。食品安全委員会の下には、12の専門調査会と8つのワーキンググループが設置されています(2019年11月現在)。「リスク評価の窓」では、各専門調査会等の概要とともに、各座長等からの寄稿文をご紹介します。

リスク評価の窓 http://www.fsc.go.jp/visual/Introducing_risk_assessment/



食品安全モニター

食品安全委員会は、食品安全行政の監視(モニタリング)や食品安全に関する広報等に御協力いただく食品安全モニター(※)を公募しています。2018年度は405名の方に依頼し、食品の安全性等に関するアンケート調査を実施したほか、食品安全に関して26件の提案(随時報告)を受け付けました。

食品安全モニターの皆様が積極的に活動に取り組めるよう、食品安全委員会から、食品安全について学べるeラーニングの提供や、食品安全のトピックスや講座などのお知らせを行っています。

※定員は470名。募集は例年年末ごろに2か月程度実施。応募に当たっては、大学の学部や資格、過去の業務経験等の一定の要件あり。

食品安全モニター <http://www.fsc.go.jp/monitor/>

食品の安全性に関する知識・理解を深めていただくために

食の安全ダイヤル

03-6234-1177

受付時間 10:00~12:00
13:30~17:00
(土・日・祝日、年末年始を除く)

メール窓口 <https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-0001.html>

ホームページ

<http://www.fsc.go.jp/>

食品安全委員会

検索

メールマガジン

<http://www.fsc.go.jp/e-mailmagazine/>



Facebook・ブログ 食品の安全性に関する身近な情報をお伝えしています。

Facebookはこちら! <http://www.fsc.go.jp/sonota/sns/facebook.html>

オフィシャルブログはこちら! http://www.fsc.go.jp/official_blog.html